

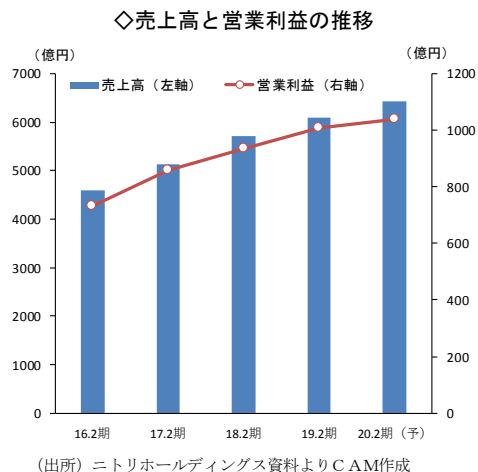
企業ニュース ニトリホールディングス

(東証1部: 9843) <https://www.nitorihd.co.jp/>

作成者: 荒木晶子

中国事業は再成長に向けた足場固めを優先

家具・インテリア販売チェーン。グループ内で製造・物流・販売を行う独自のビジネスモデル「製造物流小売業」を確立。自社で開発する高機能商品の低価格販売を実現している。国内では10月に消費税率の引き上げが予定されており、当社が得意とする低価格販売が好感され、国内シェアの拡大が期待できよう。中国事業は、現地での人材育成の遅れを背景に出店を抑制するなど成長鈍化が懸念されていたが、課題の抽出と対策に取り組み、4月、5月の中国の既存店売上高は改善している模様。2019~2020年度は、人材育成や商品供給体制の整備、日本の商品との共通化を進めるなど足場固めの期間とし、2021年度から出店を再加速する計画である。



第1四半期は計画線で着地

20.2期・第1四半期(2月21日-5月20日)の連結業績は、売上高が1,673億円、前年同期比6%増、営業利益が304億円、同横ばい。上期計画に対しての進捗率は、売上高が52%、営業利益が57%となり、会社は計画線とコメントした。国内既存店売上高は前年同期比4.9%増、客数・客単価ともに増加した。粗利益率は商品入れ替えなど原価対策の効果がみられたものの、仕入れや棚卸資産にかかる為替レートの影響が大きく、同1.3ポイント減となった。

20.2期の通期会社計画は、売上高が6,430億円、前期比6%増、営業利益が1,040億円、同3%増。第1四半期は順調であったが、積極的な店舗改装や物流関連費用の増加を見越して、営業利益の通期計画は保守的に組まれている模様。6月の国内既存店売上高は前年同月比5.9%増と第1四半期の堅調さを維持、通期計画の前期比2.3%増を上回って推移しており、計画の上振れが期待できよう。現状の為替は1ドル=108円台と第1四半期より円高で推移している。当社は海外で製造した商品を国内で販売する比率が高いことから、円高メリットの享受が期待できよう。

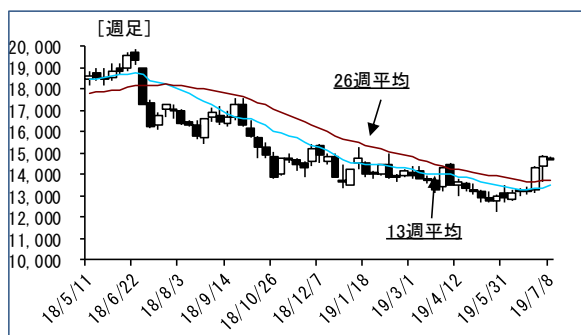
[株価動向・投資判断]

中国事業や為替の動向が好感され、足元の株価は上昇に転じた。中長期では国内事業の安定成長、中国事業の成長加速が見込まれ、収益拡大が期待できよう。

<9843 ニトリHD 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.2	572,060 (12)	93,378 (9)	94,860 (8)	64,219 (7)	574.5	92.00
19.2	608,131 (6)	100,779 (8)	103,053 (9)	68,180 (6)	608.1	97.00
20.2 予	643,000 (6)	104,000 (3)	106,000 (3)	71,500 (5)	636.6	108.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価(2019/7/8)	14,745 円
年初来高値(高値日)	15,295 円(19/1/9)
同安値(安値日)	12,260 円(19/5/22)
予想P E R (20.2 予)	23.2 倍
1株株主資本(PBR算出用)	4,594.7 円
P B R	3.21 倍
予想配当利回り	0.73 %
(1株当たり配当金年108.00円)	
R O E (19.2)	14.5 %
発行済み株式数	11,444 万株